

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	イギリス
滞在都市 (☆)	ロンドン
留学先大学等名 (☆)	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院
留学先での所属学部/研究科 (☆)	
留学先で主に使用した言語	
渡航先への入国日 (☆)	2017年 9月 24日
渡航先からの出国日 (☆)	2018年 7月 6日
渡航先国での滞在期間 (☆)	10ヶ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称	International economic politics
履修期間	2017年10月から2017年12月
授業時間 (○分×△回)	60分×4回
授業形態 (講義・セミナー)	Lecture, Lecture review/discussion, case study, seminar
取得単位数	
履修科目名称	International relations
履修期間	2018年1月から2018年3月
授業時間 (○分×△回)	60分×4回
授業形態 (講義・セミナー)	Lecture, Lecture review/discussion, case study, seminar
取得単位数	
履修科目名称	International development
履修期間	2018年4月から2018年6月
授業時間 (○分×△回)	60分×4回
授業形態 (講義・セミナー)	Lecture, Lecture review/discussion, case study, seminar
取得単位数	
履修科目名称	International business studies
履修期間	2018年4月から2018年6月
授業時間 (○分×△回)	60分×4回
授業形態 (講義・セミナー)	Lecture, Lecture review/discussion, case study, seminar
取得単位数	

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Introduction to media studies 2018年4月から2018年6月 60分×2回 Seminar
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Introduction to eastern Asia history 2018年1月から2018年3月 60分×2回 Lecture, Discussion
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	ELAS コースの場合は過半数が日本人
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	Essay, presentation
履修科目の制限等（あれば） （英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業 科目の充実度等について	特定の科目は交換留学生には履修できない

語学に関するサポート(特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等)	
授業内での留学生に対するサポート等	
その他	

2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	食堂、購買ともに充実している。
図書館について	09:00 から 23:30 まで開館している
保健センター等の有無	
クラブ・サークル等について	
留学生へのサポート	
オリエンテーション等学校主催の行事について	キャンパスツアーやクラブ紹介等、充実している
現地の学生との交流について	
他の留学生との交流について	
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	
長期休暇中の過ごし方	旅行、Essay
その他	

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	Tier4 VISA
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等)(☆)	3ヶ月前からの申請が可能。早めがよい。 https://www.gov.uk/government/world-location-news/top-tips-for-uk-student-visa-applicants--2.ja (GOV.UK)
利用航空会社	マレーシア航空
入国の際の現地空港名	ロンドンヒースロー空港
空港から滞在先への移動について(交通手段や所要時間)	地下鉄で一時間程度
入国審査について(提示した書類、審査官からの質問等)	滞在期間を問われたように思う。
渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	これは必須だが、イギリス到着後まずすべき事はBRPの受け取り。期限があるのでできるだけ早く、指定の郵便局に受け取りに行くのがよい。

その他	
-----	--

4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	有
奨学金名	官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～
奨学金月額受給額（円）	16万円
入国時に用意した金額	30万円
クレジットカードについて（カード会社名・日常の利便性）	ライフカード
留学中に利用した銀行名	HSBC
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	現地銀行のHSBCで口座開設、（手続きには大学からのoffer letterが必要）
デビットカードの使用について	有
日本からの送金方法について	ネット銀行
1ヶ月の生活費（目安）	5万円
その他	

5. 暮らしに関する情報

5. 1 住居に関する情報

住居の種類（学生寮（一人部屋・二人部屋）・アパート等）	学生寮
家賃	190£/week
住居を探した方法・時期	ネット、渡航直前
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等）	
その他	

5. 2 食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	朝食→学生寮 夕食→自炊
1ヶ月の食費	
その他	

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	SIMフリーのスマートフォンを持参するとよい。
インターネットについて（Wi-Fi環境等）	学内専用のWifiがある。
コンピュータについて	

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

郵便について	Parcel force、日本から郵送してもらう際には VAT や関税についてよく調べておいた方がよい
交通機関について	バス、地下鉄ともに利便性が高い
治安について	当然だが夜間は出歩かないほうがよい、歩きスマホによる盗難も頻発している
保険について	加入すべき
医療機関・薬について	医療制度が発達しており、事前登録しておけば NHS であれば診察料は無料（薬代は自腹）
気候と服装について	大阪と似た気候
普段の買い物について	TESCO や Waitrose がよい。Marx Spensr では期限切れ寸前の商品が破格で購入できる。
娯楽・行事について	ロンドンでは娯楽には困らない。ただし危険なエリアもあるので要注意
日本語の使用について	SOAS には日本語学部の学生もおり、Language exchange も毎週行われている。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	持病があれば当然だがその薬を持参すべき ロンドンで同じものが手に入るとは限らない。
その他	

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	
留学中の就職活動について (海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターシップ等)	DISCO が運営しているキャリアフォーラムに参加 その他、ロンドンで開催されているジョブフェアは多い。

7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	阪大に来ている留学生と言語交換、IELTS の受験
留学中の学習方法、工夫したこと等	自分が聞き取れなかった単語、自分の伝わらなかった英語のリストを作り、都度見直す。

留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	ライティングとスピーキングに関しては飛躍的に伸びたと思う。
------------------------------------	-------------------------------

8. その他

留学して得られたこと	語学力、批判的思考力
留学中に困ったこと	身体および精神の健康問題
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	「ブラウンの熊たち」

9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

留学を決めた理由

留学を決めた理由は二つあり、一つ目の理由は自分の Comfort zone から抜け出たかったから。

阪大に入学してから、日本での常識や価値観が通用しにくい海外で生活することで、自分自身を成長させたいと常々思っていた。その中でも、ロンドン是世界一とあっていいほど人種多様性に富んでおり、その経済・文化の中心であるという特徴を含めて、最も留学先として適した都市・国のひとつであると思ったのが留学を決めた発端だ。

二つ目の理由は、常識に捉われずに自分で考える力を身につけたかったから。

阪大の専門・研究セミナーで初めて対話型の授業に取り組む中で、自分が無意識的に考えていた事や世間的に常識とされている事、あるいは経済学が前提としていることに対して意識的になることができた。このような経験を経たことで、今後は海外でより多様な意見を持つ人々と対話しながら、自分自身の意見を持てるようになることを目標とし、その手段として留学を決めた。その中でもロンドンに決めたのは、人種だけではなく文化にも多様性があると考えたからだ。実際、SOASでは日常的にLGBTの学生と会い、資本主義の是非といった政治経済やイギリスの年金問題に対しても明確な意見を持つ学生が多く、とても刺激的だった。また、日本では珍しい大学ストライキが長期間に渡り行われたことも特徴できな出来事だった。

現地で履修した授業およびその感想

英語力不足により、SOASの学部課程ではなく English Language and Academic Studies (ELAS) という英語基礎コースでの留学となった。

ELASコースでは、Academic English (Oracy, Literacy) の作法を鍛えることを主眼においており、欧米圏で一般的とされているディスカッションの仕方やエッセイの書き方を

徹底的に叩き込むことができる。コースの性質上、英語のレベルが学部課程に満たっていない学生がほとんどなため（中には Master に進学する前の準備として在籍する学生もいる）、その出身国は日本を中心としたアジア圏からの学生が大多数を占めていた。とは言うものの、レベルが低いわけではなく、課題や Essay も自分にとって大変苦勞するものだったし、実感としてアカデミックな作法が身についていると感じる。

学部課程で留学したかった当初は、自分の留学先が ELAS コースに決定した時はとても落胆したが、今振り返ってみると自分の目的に適ったコースだったように思える。そもそも留学で何を得るかは、自分次第だということが、身にしみて分かった。

楽しかったこと

クラスでのディスカッションは知的好奇心に満ちたものでとても満足している。また、旅行を含め課外活動も楽しめた。

これから留学を考えている後輩へのメッセージ等

人それぞれ留学を考える理由は異なると思うが、時間・資金という大きなコストを払い、周りの人々から協力を仰ぐからには、何か自分なりの目標を一つ掲げて、それを成し遂げて欲しいと思う。同じ留学仲間を見ても、自分のやりたい事やビジョンがある学生とそうでない学生とでは、やはり行動範囲やその結果に大きく乖離があったように思う。前者のような学生は魅力的だし、留学をすることで多くの事を得ている印象があった。とは言え、あまり気張らず気楽にやればいいのか、というのが留学終盤に抱いた正直な感想だ。イギリス人がよく使う英語表現に「To be fair (公平を期すと)」という言葉があるが、常識や先輩達が言っていることだけに偏るのではなく、一方で自分の声にも深く耳を傾けることが一番なのかもしれない。